

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年12月15日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1670102183		
法人名	有限会社朝日ケア		
事業所名	あさひホーム		
所在地	富山市北代189		
自己評価作成日	平成29年11月3日	評価結果市町村受理日	平成30年1月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成29年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

恵まれた環境の中で、ご利用者様、職員ともに生活を楽しめるように、食事、ドライブ、散歩、生け花、花壇づくりなどを季節にあわせて提供し、各々が生きがいを感じることができる暮らしを継続している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

職員は、利用者に笑顔で優しく接することで、利用者の笑顔がたくさん見られるよう支援している。職員も一緒にテーブルにつく食事時には冗談を言い合ったり、天気が良い日にはふらりとドライブに出かけ、四季の移ろいを感じたりしながら、職員と共に穏やかに暮らす雰囲気をつくっている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

あさひホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に経営理念を掲げ、毎日の朝礼で唱和、夜勤者も勤務前に理念の確認を行いご利用者様の満足につながるよう取り組んでる。	朝礼時には、理念を唱和し、職員全体で理念を共有している。また、各々の職員が日々のケアを振り返り、理念を実践できるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小中学校、保育所との交流、運動会、祭りの来訪などで地域の方と利用者様が気軽に触れ合うことができる。	14歳の挑戦で訪れた中学生と、孫やひ孫のように交流したり、春の獅子舞の際には、獅子頭を撫でて歓声をあげるなど、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェや、地域の「家族介護教室」へ講師として参加、認知症の理解の一端をになっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、民生委員、地域包括支援センター、利用者ご家族に参加頂き、交流を図るとともに、現在の事業所の様子をお伝えし、ご意見、情報を得て、今後活かしていくことができている。	自治会長が校下の運動会の案内をしたり、地域包括支援センター職員が介護保険制度の現状などの説明をしている。また、家族からは、サービス内容についての質問が出るなど、会議での話し合いを運営に活かすよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月に一度富山市介護相談員が来訪し、利用者様とのかかわりの中から、現状を把握し、時宜にあったアドバイスを頂いている。	介護保険の改正点などについて具体的に市の担当者に問い合わせ、回答を得るなど、市と連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>「身体拘束ゼロへの手引き」をもとに、ご利用者様の安全を確保することにより、不適切な対応にならないために、常に、職員同士で情報交換、対応について検討している。</p>	<p>身体拘束の内容とその弊害を、職員全員に勉強会などで周知している。また、利用者の様子に留意し、想定されるリスクへの対策を早めに立て、安全に配慮しながら、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部研修会への参加、管理者職員共に、虐待につながる環境、対応について周知徹底、予防に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>運営推進会議で司法書士の方から成年後見についてのレクチャーを受けたり、家族会にお招きし交流を図り知識をえて必要があれば活用できるように努めている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>見学時や契約時にお話を伺いながら疑問点を説明し、十分納得していただいたうえで契約していただいている。改定時は書面を見ながら説明、同意していただいている。</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族面会時、運営推進会議の際にご利用者様の様子を説明、意見や要望を聞き取り、契約書にクレーム対応者として管理者名前を記載している。グループホームの玄関に意見箱を置いている。</p>	<p>家族からの要望には、個別に丁寧に説明するよう心がけ、意見や要望を述べてもらいやすい雰囲気をつくっている。利用者には、富山市の介護相談員や事業所の職員に気兼ねなく要望を出してもらっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度のミーティング、管理者、管理者補佐会議が開催され管理者、介護部長も参加し、職員から出された意見提案を運営に反映させている。	毎月のミーティング時には、レクリエーションの内容などについて提案が出されたり、日々の業務の中で気づいたことはリーダーに伝えるなど、職員から意見を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期に一度の人事考課、面談で各々の職員の仕事への取組みを評価するとともに、要望や意見疑問を聞き取り、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各人の経験、力量に応じた職場内外の研修会に参加を勧め、得た情報を職場に持ち帰り、他の職員と情報共有、業務に反映させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	富山県グループホーム連絡協議会が主催する研修会へ参加し交流を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から、ご本人にお会いし、話を伺う機会を設け、信頼関係を築き安心感を持って入居していただけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や契約時にご家族の困りごと、要望をお聞きし、ご利用者様の生活に反映させることにより、信頼関係を構築するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人ご家族からの傾聴に加え、職員の観察に基づくご利用者様にあつた提案をさせていただき、ご利用者様がグループホームでの生活になるべく早くなじめるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる範囲で家事作業（食事の下ごしらえ、掃除、洗濯）を職員とともに行き会話や軽労作で気分転換につなげていただいている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際や、必要なときは連絡をして、ご利用者様の情報をこまめに伝え、ご家族と共にご利用者様を支えていくことを基本にし、ご家族の何気ない言葉にもニーズを聞き逃さないよう日々努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	年来の交友関係をご本人家族からお聞きし、その関係が継続するよう健康状態保持のために医療との連携、ご家族への連絡調整に努める。	行き慣れた美容院などに出かけ、そこで再会する知人とおしゃべりを楽しんでいる。また、古くからの知人が訪ねてきてくれることがあり、その際にはお茶でもてなすなど、馴染みの関係の継続に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	よい人間関係が築けるように、ご利用者様同士の会話、表情を記録し、職員間で情報共有する。状況に応じた、座席の変更、レクリエーションなどで交流を図っていただく。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にもご家族の了承を得て面会させていただいたり、近況をお聞きしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段からご利用者様の好みや、意向を聞き取り、ご本人がしたい時にしたいことができるように援助させて頂いている。（ドライブ、散歩、買い物など）	みんなの前では言えないことも、入浴時の弾んだ会話の中に本音が見えることもあり、利用者ごとの個人記録に書き留めて、ミーティング時に本人の思いを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から伺ったり、今までの生活歴や会話の中からご本人の馴染みを聞き取り、記録することにより職員間で情報共有し、ご利用者様のこれまでの暮らしを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録、バイタル記録を継続し、身体状態、精神状態の把握に努め、職員間で共有、検討しご利用者様にあったケアにつなげる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	根拠に基づくケアを行うため日頃からの観察、記録、検証に基づくご家族ご本人の意向を反映させた介護計画書を作成している。ミーティングで話し合い、ケアの評価を行っている。	利用者がより良く暮らすための課題を分析するために、個人記録の方法を改善し、ニーズの把握に努めている。また、具体的な支援方法を職員や家族と相談し介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や体調の変化などは個別記録に記入し、職員が情報共有している。話し合いを持ちながらケアの実践や介護計画の見直しに活かす様努める。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスやショートステイ、地域の年間行事、イベントへの参加など多種多様な交流により社会の中で生き活きと生活できるように支援する。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月一度地域の合唱団やカラオケ同好会、フラメンコ舞踊の鑑賞の機会があり楽しんでおられる。散歩を兼ねた近所のスーパーへの買い物も生活に潤いをもたらしている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にご家族と共に本人のかかりつけ医への受診・相談を行い、必要に応じて往診への変更も支援している。	入居前からのかかりつけ医に家族と一緒に受診に行ったり、事業所の協力医による訪問診療への切り換えなど、利用者や家族の希望に沿った受診支援に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日同一の時間にバイタル測定を行い、体調確認の目安にしている。変化に気づいた時は看護職員に報告対応している。必要に応じてご家族や主治医に相談し適切な対応につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療と家族との連携のためこまめに情報交換し、適正な治療を受け早めの退院ができるように努める。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態に合わせ、家族、職員、看護師が十分に話し合いをしながら、主治医など医療機関との情報交換をこまめに行いながら対応し、本人家族の希望に沿った支援をするように努める。	利用者の食事の進み具合など、変化が見られれば、家族と今後の方針を話し合っている。「最期まで」との要望があれば、医師の所見をもとに、方針を共有し、家族や医師と連携をとって支援することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による定期的な社内勉強会や、消防署の協力を得て緊急時の対応やAEDの使い方の講習を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回消防署の協力で日中、夜間想定避難訓練、避難経路の確認を実施している。マニュアルを作成し、職員間の情報共有を行っている。	昼夜の火災を想定しての避難訓練を年2回実施している。また、近くに用水があり、水害対策についても検討している。	今後は、避難訓練に地域の人達に参加してもらい、避難後の見守りなどをお願いすると共に、火災以外の水害や地震について、具体的な対策を立てることが期待される。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格、心身状態に合わせて対応できるように、相手の立場にたった声掛けができるように、「ユマニチュード」、「パーソンセンタードケア」のケア方法を学んだ職員が、接遇委員となり職員の意識を高めるように努めている。	接遇委員が外部研修で学んできたことを職員に研修し、利用者一人ひとりを尊重した言葉かけや対応の実践につなげている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない言葉や表情からご利用者様のニーズを見極め、さりげなく意向を伺うように努める。言葉に表せない方にも、時に応じた声掛けやボディタッチでアプローチし笑顔を引き出す様にしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員がご利用者様の視点に立って、体調や気分を考慮しご本人のペースを大切にしながら支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った、その人らしい服装をご利用者様と一緒に選びおすすめている。外出時は気持ちを引き立てるように、帽子やスカーフを選んで頂いている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある献立、ズイキ、海苔巻、いなり寿司など懐かしい味、材料など、生活の中で、一つでも喜びにつながるように職員が聞き取り、献立に反映させている。買ひ物、下ごしらえ盛り付けをお願いしている。	季節の食材や、懐かしいズイキの酢物などを献立に加えている。また、利用者の目の前で巻ずしを作るなど、目先を変えて、食事が楽しくなるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量を記録し把握に努め、それぞれの嗜好について、貼り出し周知徹底している。バランスの良い食事を提供できるように、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後習慣的に食後の声掛けを行いその方に合わせた口腔ケアにつとめている。必要に応じて提携歯科に連絡し往診をお願いしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員が排泄チェック表によりその方の排泄パターンを把握し、タイミングに合わせた声掛けでのトイレ誘導、気持ちの良い排泄ができるように支援している。	利用者一人ひとりが、自分のペースで気持ちよく排泄できるよう、声かけの仕方や具体的なケア方法を職員間で話し合い、排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の記入により毎日の排泄状態を把握し、よりスムーズな排便につなげるように水分、食事、適度な運動をお勧めし便秘の予防を行う。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	気持ちの良い入浴をしていただくために、バイタル測定、水分補給、湯温、室温管理に配慮し安全な入浴を基本に、風呂好きな方が入りたい時にいつでも入れるように柔軟な対応に努めている。	脱衣室には、夏場は扇風機、冬場はストーブを置いて、温度管理に留意したり、入浴前にはお茶を飲んでもらうなど、利用者が安全に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜勤者との申し送りによって日中の活動、前日の睡眠状態を把握し、職員間で情報共有しながらその人にあった心地よい睡眠をとれるように支援する。寝具も季節、体調に合ったものを選んでいく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は看護師が服薬スケジュールを組み当日は職員管理でダブルチェックし漏れのないように工夫している。居宅療養管理指導で薬剤師と連携し、服薬の相談および残薬の管理もお願いしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることをしたい時にその方らしくしていただけるよう、タイミングを計り声掛け、食事の下準備、掃除、洗濯物たたみなどを職員と談笑しながらしていただいて生活のアクセントになっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はドライブを楽しまれたり信心深い方は近所の神社に散歩され参拝しておられる。	近くの神社まで散歩し、お参りしたり、天候を見て、車でぐるっと一回りして、気分転換を図っている。また、大岩にそうめんを食べに出かけるなど、行事としてのお出かけも行っている。外出が難しい場合でも、ウッドデッキに出て、ガーデニングを眺めるなど、戸外に出る支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はご家族からお預かりしたお小遣いをお小遣いノートで管理し、おやつや好きなおかずを購入して召し上げて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙はご本人の要望に応じてタイミングを見計らって支援させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓からそそぐ日差し、ヒノキの浴槽での入浴、ウッドデッキでのガーデニング日向ぼっこなど、ご利用者様が心地よさを感じる環境を整えて過ごして頂いている。	大きな天窓から差し込む光、冬場の床暖房など、利用者が居心地よく過ごせる環境づくりに努めている。また、家庭的な雰囲気のある食器棚や、畳敷きの部屋など、生活感を感じてもらえるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにあるソファやウッドデッキのベンチでくつろぎ、気が合った人同士で過ごすことができるよう配慮されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年使い慣れた家具を持ち込んで、居心地の良い部屋で過ごして頂いている。ADL（日常生活動作）に応じて本人、家族と相談しながらレイアウトを変えるなど、職員が気を配っている。	「ここに入る時に息子が買ってくれた家具なの」と誇らしげに職員に語ったり、お気に入りの使い慣れたタンスの上に家族が持参したお花を飾るなど、家族と協力しながら利用者が安心して暮らせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の必要に応じて居室の表札やトイレの表記を利用者様の目線にあわせ分かるように工夫をしている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 あさひホーム
 作成日 平成 29年 12月 20日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策における地域との連携	火災については施設での避難訓練を行っているが地震、水害と共に地域との取り組みが必要と思われる。今後地域に働きかけたい。	2ヶ月に1度の推進会議にて自治会長様に災害対策についての課題を伝え、協力をお願いする。今後具体的に働く働きかけたい。	3～6ヶ月
2	10	ご家族の改善して欲しい点について	アンケートでのご家族の思いや気になる点を考慮し改善に努めていきたい。	年に数回ご家族との交流会を実施し、意見交換や日頃の報告などしていきたい。	2ヶ月～1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。